

神歯国保
jinsikokuho

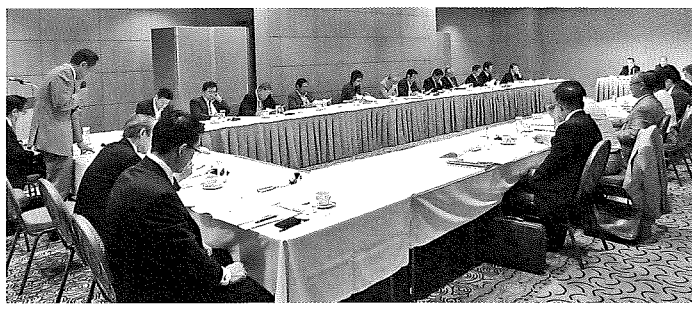
神奈川県当番で関歯連総会開く

各県との情報交換等なされる

関東地区歯科医師国民健康保険組合連合会(関歯連)の総会が、去る6月30日(木)神奈川県「パンパシフィック横浜ベイホテル東急」で開催された。

午後1時30分から、7県30名の役職員が出席し、役員協議会が開かれた。

神奈川県田島常務理事の司会で幕を開けた役員協議会



役員協議会の模様

「役員報酬、退職手当、旅費(日当)について(千葉県提出)
②「国庫補助金の定率補助率の削減を前提にした対応について」(群馬県提出)
③「法令遵守(コンプライアンス)の対応について」(埼玉県提出)

以上は議題の提出があり、各県の状況をとりまとめた資料に基づき協議が行われた。

最後に、神奈川県森田常務理事の閉会の挨拶で役員協議会は閉会した。

続いて、午後2時45分から7県71名の役職員の出席のもと総会が開かれた。

神奈川県田島常務理事の司会で幕を開けた総会は、神奈川県本郷副理事長の挨拶、物故被保険者に対し黙祷に続き、当番県の神奈川県小澤理事長より、「本年は国民皆保険制度が発足して満50年となりますが、国保組合を取り巻く情勢は非常に厳しいものとなっております。昨年行われました事業仕分けの結果

として国保組合に対する従来の定率補助を廃止することを含めた国民健康保険法の一部改正案が国会で審議されるようとしております。ご存知のように今の国庫補助金は協会健保と市町村国保の狭間にありまして、同種同業のもので組織する中間的な所得層で構成されている国保組合に対する定率分32%の補助があります。国保組合は構造的には市町村国保と同じ組織構造となっており、市町村としての保険者と国保組合としての保険者はほぼ同等のものであり、現在の国民健康保険法の位置づけとなっております。

したがって定率補助が0%というのはありえないことと思います。保険者機能の結果として動いている国保組合を理解せず現状のみでの批判から始まったこの問題は全協も含めた議論の場を作り、国保組合も参加した議論の場で結論を出していただきたいと存じます。今後とも私も歯科医業という同種同業の組合が一致してこの難しい時代に対処していかねばならないと思います。本日の総会が組合の発展に寄与するものとして意義あるものとなりますように、またそれぞれの組

合の発展につながるものとして期待したいと思っております。」と当番県挨拶がなされた。

続いて、来賓の神奈川県田島常務理事、全国国民健康保険組合協会阿部正俊会長からそれぞれ挨拶が述べられた。

続いて座長・副座長の選出が行われ、座長に神奈川県小澤理事長、副座長に千葉県山口理事長より、平成24年度は千葉県にて役員協議会及び総会を開催したい旨の挨拶がなされた。

最後に、神奈川県森田常務理事の閉会の挨拶で総会を閉会した。

最後に、神奈川県森田常務理事の閉会の挨拶で総会を閉会した。

最後に、神奈川県森田常務理事の閉会の挨拶で総会を閉会した。

最後に、神奈川県森田常務理事の閉会の挨拶で総会を閉会した。



総会の模様